

コラムニスト 天野祐吉の隠居大学

ゲスト 内館 牧子

NHKラジオ
隠居大学

2012年10月29日



内館 牧子(うちだて まきこ、1948年9月10日 -)は、日本の脚本家、作家。
東日本大震災復興構想会議委員。東京都教育委員会委員、ノースアジア大学客員教授。
元 横綱審議委員会委員。学位は学士(造形学)(武蔵野美術大学)、修士(宗教学)(東北大学)。

秋田県秋田市生まれ。父親は岩手県盛岡市、母親は秋田市出身。日本冷蔵(ニチレイ)に勤めていた父の転勤で、四歳から新潟県、小学校3年からは東京都大田区で育った。東京都立田園調布高等学校を経て、1970年(昭和45年)、武蔵野美術大学造形学部基礎

デザイン学科卒。その後は三菱重工業に入社して横浜製作所に勤務、同所硬式野球部でマネージャーも務めた。1987年脚本家デビュー。当初は岸牧子の筆名で活動。代表作に、NHK連続テレビ小説『ひらり』、『私の青空』、大河ドラマ『毛利元就』などがある。

大の格闘技ファン、特に好角家であることが知られ、2000年に女性初の大相撲・日本相撲協会の横綱審議委員に就任。東京で行われる場所は10日は会場に足を運んだ。その他プロレスにも造詣が深く2011年現在東京スポーツ主催のプロレス大賞で特別審査委員も務めている

代表作に、NHK連続テレビ小説『ひらり』、『私の青空』、大河ドラマ『毛利元就』などがある。

朝青龍を怒っている最中に心臓が苦しくなった。居酒屋の二階だった。2時間後に大手術開始、13時間の手術で4ヶ月間入院していた。体重が46キロになった(慎重167センチ)。皆にやせたわね・と言われた。

桜餅が圧倒的に好き。隅田川七福神巡りは和菓子の宝庫。自分は「こしあん」が好き。アズキは日本で栽培され大半は「あんこ」になっている。日本人は「あんこ」好き。

きれいな言葉は、「生きざま」「こだわる」と言う言葉。あの先生の「生きざま」が理想とか……
「死に様(ざま)」からの連想でできた語とされる。

相撲は生まれつき好き。子供の頃ははじめられっこ。4歳の時いつも助けてくれる男の子がいたが体の大きい子で、その時以来、体の大きい人が好きになった。主義はアカデミックよりもダイナミック。

相撲の歴史は600年代から続いている。拍手、もみ手は意味がある。昔、草をもんで身を清めたことから今につながっている。勝った関取が水をつけているが、平安の頃は水ではなく花だった。東は「あおいの花」西は「夕顔の花」だった。その頃の花が「花道」という言葉に残っている。

学校をでてからOLを13年やっていた。35歳ぐらいまで、ただいた…の感じだった。新聞でシナリオライターの広告を見て養成所にかよった。面接の時、「今まで見た映画で一番良かったのは？」と聞かれた。自分は映画をあまり見ていなかったので「土俵の花 若乃花」と答えた。

(天野祐吉)シナリオを書き始めが隠居のはじまりです
ね…40歳でシナリオデビュー。43歳でNHK連続テレビ小説「ひらり」を発表している。

ここ4年前から将棋をはじめた。米長さんに弟子入りをお願いし、若手の中村太地6段に教えてもらっている。

年をとったら将棋はいい。

頭を使うから。将棋は性格がでる。

(天野祐吉)これからの楽しみは？

仕事が一番の楽しみです！家でものを書くのが一番すき。1000年前の紫式部は凄い！

一週間休みがとれたら何をしますか？の質問の答えは、「仕事をする！」です。仕事が一番楽しくて幸福。

相撲は時代と共に変わってきている。

制限時間、土俵の大きさ……

呼び出しの声、オペラの序曲のはじまり

魁皇と千代大海の落ちてきて360キロの下敷きになってしまった。

相撲診療所に行ってレントゲンを撮ってもらったが骨が折れていた。

あるスポーツ新聞に「内館牧子 下敷き！」の見出しで写真が載った。その写真を伸ばし記念に飾ってある。

心臓病での臨死体験が今に生きている。

あれ以降、何か吹っ切れた。

天野さん！ 次は将棋のお手合わせ、お願いします。